

令和4年度

全日本中学校道德教育研究会役員・理事会（第3回）

道德教育の充実に 向けての課題

国立教育政策研究所

教育課程調査官 飯塚 秀彦

（併）文部科学省教科調査官

1 道德教育における校長の役割

3

**Q：『中学校学習指導要領』に
「校長」という記述は何か所あるで
しょうか？**

1 道德教育における校長の役割

2 道德教育推進教師の役割

1 道德教育における校長の役割

4

『中学校学習指導要領』第1章第5の1

- 1 教育課程の改善と学校評価，教育課程外の活動との連携等
 - ア 各学校においては，**校長の方針の下**に，校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ，相互に連携しながら，各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また，各学校が行う学校評価については，教育課程の編成，実施，改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ，カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

『中学校学習指導要領』第1章第6の1

- 1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、**校長の方針の下**に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、生徒や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

『中学校学習指導要領』第3章第3の2

- 2 第2の内容の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 学級担任の教師が行うことを原則とするが、**校長**や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

●道徳教育実施状況調査

- 「道徳教育の更なる改善・充実を目指して～令和3年度道徳教育実施状況調査結果のポイント解説～」(動画)

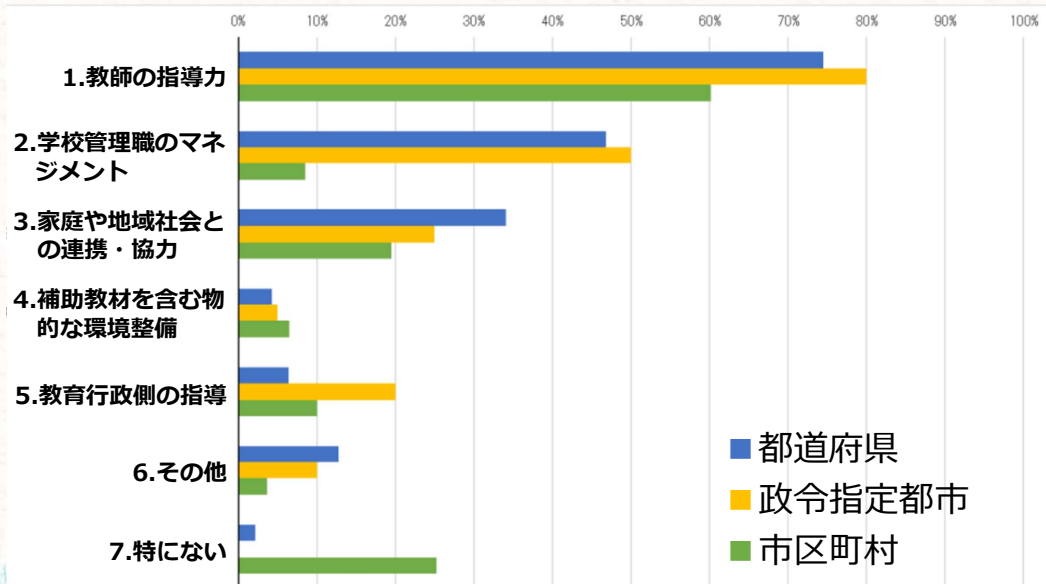


令和3年度道徳教育実施状況調査の結果について、道徳担当教科調査官がポイントを解説する動画です。(所要30分程度)
先生方はもちろんのこと、各学校、教育委員会においても是非研修等でご活用ください。

- 解説動画で使用している資料「道徳教育の更なる改善・充実を目指して」(PDF:8.3MB)
- 令和3年度道徳教育実施状況調査(結果概要)(PDF:3.7MB)
- 令和3年度道徳教育実施状況調査(報告書)(PDF:2.1MB)
- 道徳教育実施状況調査(平成24年度実施)(PDF:318KB)
- 道徳教育推進状況調査(平成20年度実施)(PDF:380KB)

教育委員会対象

【設問2-①】道徳教育のさらなる充実のために特に**課題**となっていること
(複数回答)



『中学校学習指導要領解説 総則編』(p.131)

ア 校長の方針の明確化

道徳教育は、「第1章総則」の第1の2(2)に示すように、学校の教育活動全体で行うものであり、**学校の教育課程の管理者である校長**は、その指導力を発揮し、**学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に明確に示すことが必要**である。校長は道徳教育の改善・充実を視野におきながら、関係法規や社会的な要請、学校や地域社会の実情、生徒の道徳性に関わる実態、家庭や地域社会の期待などを踏まえ、**学校の教育目標との関わりで、道徳教育の基本的な方針等を明示しなければならない**。

『中学校学習指導要領解説 道徳編』(平成20年7月)

道徳教育は、「第1章総則」に示すように、学校の教育活動全体で取り組むものであり、**校長は学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に明確に示すことが求められる**。校長は道徳教育の充実・改善の方向を視野におきながら、生徒の道徳性にかかわる実態、学校の道徳教育推進上の課題、社会的な要請や家庭や地域の期待などを踏まえ、学校の教育目標とのかかわりにおいて、道徳教育の**基本的な方針等を明示する必要がある**。

教育委員会対象

【設問2-①】道徳教育のさらなる充実のために特に**課題**となっていること
(複数回答)

自由記述回答

- ・教職経験の浅い教師が道徳教育推進教師となるケースがあるなど、**道徳教育推進教師の位置付けや指導・育成・支援が不十分**

『中学校学習指導要領解説 総則編』(p.131)

ア 校長の方針の明確化

道徳教育は、「第1章総則」の第1の2(2)に示すように、学校の教育活動全体で行うものであり、**学校の教育課程の管理者である校長**は、その指導力を発揮し、**学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に明確に示すことが必要**である。校長は道徳教育の改善・充実を視野におきながら、関係法規や社会的な要請、学校や地域社会の実情、生徒の道徳性に関わる実態、家庭や地域社会の期待などを踏まえ、**学校の教育目標との関わりで、道徳教育の基本的な方針等を明示しなければならない**。

校長が道徳教育の方針を明示することにより、

- ・**全教師が道徳教育の重要性についての認識を深めることができる。**
- ・**学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について共通に理解し、具体的な指導を行うことができる。**
- ・**全教師が協力して学校の道徳教育の諸計画を作成し、展開し、その不断の改善、充実を図っていく上でのよりどころになる。**

Q：道徳教育推進教師に求められる資質・能力は何でしょうか？

『中学校学習指導要領解説 総則編』(p.131)

イ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備

(ア) 道徳教育推進教師の役割

なお、**道徳教育推進教師については、その職務の内容に鑑み、校長が適切に任命するとともに、学校の実態に応じて人数等に工夫を加えるなどの創意工夫した対応が求められる**。さらに、道徳教育推進教師の研修や**近隣の学校の道徳教育推進教師との連携等も積極的に進め、道徳教育の充実に努めることが大切である**。

1 道徳教育における校長の役割

2 道徳教育推進教師の役割

自校の道徳科の年間指導計画は
どのような工夫がなされていますか？

道徳科の年間指導計画が
取り扱う順番を示すだけのものになって
いませんか？

道徳科の授業が
単発の指導になっていませんか？

『中学校学習指導要領解説 総則編』（p.131）

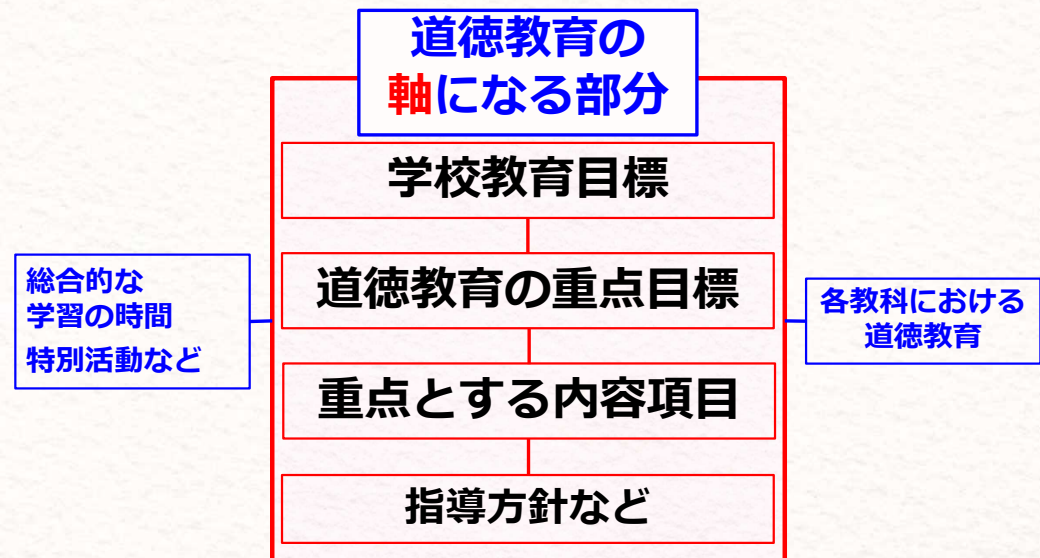
イ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備

(ア) 道徳教育推進教師の役割

- ・ 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・ 全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること

- ・ 道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・ 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ・ 道徳教育における評価に関すること など

〈道徳教育の全体計画〉



年間計画にどのように反映させているか？

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.72～）

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

- (1) 主題の設定と配列を工夫する
- (2) 計画的、発展的指導ができるように工夫する
- (3) 重点的な指導ができるように工夫する
- (4) 各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する
- (5) 複数時間の連携を図った指導を取り入れる
- (6) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する

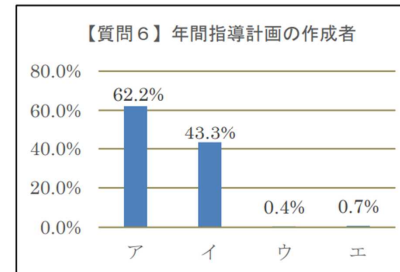
 > 東京都中学校道徳教育研究会
 「令和3年度アンケート調査結果」より

【質問6】貴校の道徳教育を推進する年間指導計画を作成しているのは主に誰ですか。

- ア 道徳教育推進教師
 イ 各学年の道徳担当
 ウ 学級担任
 エ 学年主任

<調査結果から分かること>

道徳教育推進教師を中心に学年に道徳担当者を決め、責任をもって組織的に指導を行っている。推進教師一人に任せないで、学年で分担する傾向も変わらない。


 道徳教育推進教師を中心に
 全教師が協力して道徳教育を展開

 > 東京都中学校道徳教育研究会
 「令和3年度アンケート調査結果」より

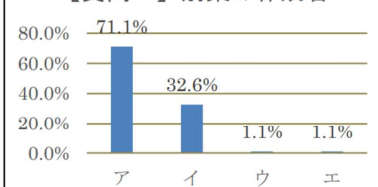
【質問9】上記8で「ア」「イ」「ウ」「エ」とお答えいただいた学校にお尋ねします。別葉は誰が作成しますか。

- ア 道徳教育推進教師 イ 各学年の道徳担当
 ウ 学級担任 エ 学年主任

<調査結果から分かること>

別葉の作成は、年間指導計画同様に道徳教育推進教師に任せる学校が増えている。各学年の担当者が作成する学校が3割である。

【質問9】別葉の作成者



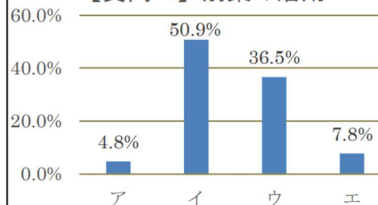
【質問10】上記8で「ア」「イ」「ウ」とお答えいただいた学校では別葉を活用していますか。

- ア よく活用している イ 概ね活用している
 ウ あまり活用していない エ 活用していない

<調査結果から分かること>

別葉を作成している学校の半数以上は活用しているが、4割以上の学校は活用していない。カリキュラムマネジメントの視点でも活用して課題発見に役立てていただきたい。

【質問10】別葉の活用



※上記8の選択肢

- ア 昨年度中に作成した イ 1学期中に作成した ウ 夏休み中に作成した
 エ 現在作成中 オ 今年度は作成しない

> 道徳教育の全体計画の別葉

内容項目	道徳科	...	英語科	...	学校行事
自主, 自立 自由と責任	○○○○○				
...	○○○○○				
思いやり 感謝	○○○○○ ○○○○○		○○○○○		○○○○○
...	○○○○○				
遵法精神 公德心	○○○○○				
...	○○○○○				
生命の尊さ	○○○ (2h) ○○○○○		○○○○○		○○○○○

詰め込み過ぎない

→重点内容項目に力点を置く

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.72～）

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(1) 主題の設定と配列を工夫する

主題の配列に当たっては、**主題の性格**、**他の教育活動との関連**、**地域社会の行事**、**季節的变化など**を十分に考慮することが望まれる。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.72～）

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(3) 重点的な指導ができるように工夫する

内容項目の指導については、生徒や学校の実態に応じて重点的指導を工夫し、内容項目全体の効果的な指導が行えるよう配慮する必要がある。その場合には、**学校が重点的に指導しようとする内容項目の指導時間数を増やし、一定の期間をおいて繰り返し取り上げる、何回かに分けて指導するなどの配列を工夫したり、内容項目によっては、ねらいや教材の質的な深まりを図ったり、問題解決的な学習など多様な指導の方法を用いたりするなどの工夫**が考えられる。そのためには、研修などにより**教師が内容項目を十分理解し、生徒の実態に即した指導を行う必要**がある。

8 友情、信頼

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、

教師の道徳的価値の理解が重要

→自分事として

考えているか？

→多面的・多角的に

考えているか？

生徒共に考えたいこと

(2) 指導の要点

小学校の段階では、特に高学年で互いに信頼し合って友情を深め、異性への正しい理解とともによりよい友達関係を築くように学習している。

現代の進歩によるものの見方や考え方、価値観の違いを強く意識するようになり、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが高まってくる。しかし、学年が上がるにつれて、時には相手に無批判に同調し、自分が傷つくことを恐れる余り、最初から一定の距離をとった関係しかもたないなど複雑な思いにとらわれる場合も出てくる。また、性差がはっきりとしてくる中学生の時期には、異性への関心が強まることも、社会的に異性を敬けたり、興味本位の情報や関連した情報に振り回されることが多くなる。

互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させたい。友達であるからこそ、悩みや葛藤を経験し、共に乗り越えることが重要である。友情は、人間にとってその人生を豊かにする大切な要素である。友情によって喜びは何倍にもなり、悲しみや苦しみは分かち合うことができる。人間として互いの人格を尊敬し高め合い、悩みや葛藤を乗り越え、互いに支え合い、励まし合うことこそが友情としていこうとする意欲や態度を育てていくことである。

「異性についての理解を深め」とあるのは、互いに相手のよさを認め、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を「信頼」するとは、相手に自分の心を開き、彼（彼女）に心を預けることができることと信じて、全面的に信頼することである。その友達の人間性に賭けることである。分ち合える関係の合点や友達の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。

「異性についての理解を深め」とあるのは、互いに相手のよさを認め、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を「信頼」するとは、相手に自分の心を開き、彼（彼女）に心を預けることができることと信じて、全面的に信頼することである。その友達の人間性に賭けることである。分ち合える関係の合点や友達の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。

「異性についての理解を深め」とあるのは、互いに相手のよさを認め、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を「信頼」するとは、相手に自分の心を開き、彼（彼女）に心を預けることができることと信じて、全面的に信頼することである。その友達の人間性に賭けることである。分ち合える関係の合点や友達の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。

「異性についての理解を深め」とあるのは、互いに相手のよさを認め、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を「信頼」するとは、相手に自分の心を開き、彼（彼女）に心を預けることができることと信じて、全面的に信頼することである。その友達の人間性に賭けることである。分ち合える関係の合点や友達の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。

「異性についての理解を深め」とあるのは、互いに相手のよさを認め、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を「信頼」するとは、相手に自分の心を開き、彼（彼女）に心を預けることができることと信じて、全面的に信頼することである。その友達の人間性に賭けることである。分ち合える関係の合点や友達の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.72～）

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(2) 計画的、発展的指導ができるように工夫する

内容項目の全体構成及び相互の関連性や発展性を考慮して、**3学年間を見通した計画的、発展的な指導**が行えるように工夫する。また、小学校における道徳科との関連、家庭や地域社会との連携を図るよう工夫することも望まれる。

・重点とする内容項目の相互の関連性や発展性を考慮する。

→重点とする内容項目に該当する3年間の教材の関連性や指導のポイントを明示する

→過年度のワークシートを活用する、など

➤計画的・発展的指導ができるように工夫する際の留意点

○内容項目の4つの視点の関係

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.20)

1 内容構成の考え方

(2) 四つの視点

この四つの視点は、相互に深い関連をもっている。例えば、自律的な人間であるためには、Aの視点の内容が基盤となつて、他の三つの視点の内容に関わり、再びAの視点に戻ることが必要になる。また、Bの視点の内容が基盤となつてCの視点の内容に発展する。さらに、A及びBの視点から自己の在り方を深く自覚すると、Dの視点がより重要になる。そして、Dの視点からCの視点の内容を捉えることにより、その理解は一層深められる。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.20)

1 内容構成の考え方

(2) 四つの視点

- A：_____を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに関するもの
- B：_____を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに関するもの
- C：_____を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに関するもの
- D：_____を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに関するものである。

➤計画的・発展的指導ができるように工夫する際の留意点

○内容項目の4つの視点の関係

○道徳性の諸様相

『中学校学習指導要領』第3章第1

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

道徳的判断力
道徳的心情
道徳の実践意欲
道徳的態度

道徳性の諸様相

➤計画的・発展的指導ができるように工夫する際の留意点

○内容項目の4つの視点の関係

○道徳性の諸様相

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.17)

4 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。これらの道徳性の諸様相は、**それぞれが独立した特性ではなく、相互に深く関連しながら全体を構成しているものである。**したがって、これらの**諸様相が全体として密接な関連をもつように指導することが大切**である。道徳科においては、**これらの諸様相について調和を保ちながら、計画的、発展的に指導することが重要**である。

ねらい

・・・道徳的判断力（道徳的心情、道徳の実践意欲と態度）を**育てる**。

道徳的価値について何を考えさせるか
を示したもの

教師の指導の意図

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.72～)

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(4) 各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する

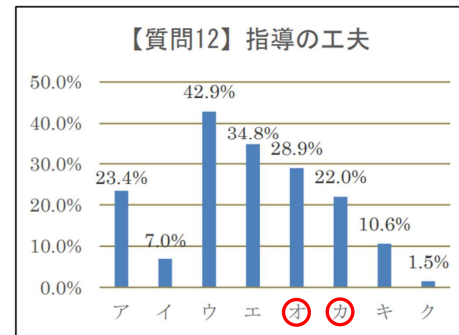
年間にわたって位置付けた主題については、各教科等との関連を図ることで指導の効果を高められる場合は、指導の内容及び時期を配慮して年間指導計画に位置付けるなど、具体的な関連の見通しをもつことができるように工夫することも考えられる。

また、**生徒自らが成長を実感でき、これからの課題や目標が見付けられるよう**、学校や家庭・地域社会における職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの**道徳性を養うための体験活動や情操を育む活動を積極的に活用**したり、校長や教頭をはじめ他の教師等も積極的に参加するチーム・ティーチング、さらに、地域の人々や保護者から積極的に授業の参加協力を得たりするなど、指導者が道徳教育推進教師と連携を密にしながら、多様な指導方法や学習形態の工夫を図ることも重要である。さらに、**特別活動の特質を十分に踏まえた上で、各学校において、特別活動と道徳科のそれぞれの役割を明確にしつつ、連携を一層密にした計画的な指導を行うことが求められる。**

➤ 東京都中学校道徳教育研究会 「令和3年度アンケート調査結果」より

【質問12】道徳科の指導の工夫としてどのような取組をされていますか。（複数回答可）

- ア 複数時間の関連を図った指導
- イ ティームティーチングによる指導
- ウ 1年を通してローテーションによる指導
(授業者が一つの授業で複数クラスを巡回指導する)
- エ 一定の期間だけローテーションによる指導
- オ 各教科等との関連をもたせた学習の指導
- カ 体験活動の生かし方を工夫した指導
- キ 小・中の接続を意識した取組
- ク その他（記述）



＜調査結果から分かること＞

「ローテーションによる指導」は78%の学校で行われ年々増えている。各教科と関連をもたせる工夫が10ポイント、体験活動を生かした工夫が7ポイント増えていることは好ましい傾向と言える。

『中学校学習指導要領』第3章第3の2の(2)

道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、**計画的・発展的な指導を行うこと**。特に、

- ・各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うこと
- ・生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること
- ・内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすること

に留意すること。

要としての役割

補充 深化 統合

よく見られる実践として

行事等の前に 事前指導的に道徳科の授業を行う

我が国の伝統と文化の尊重
国を愛する態度

遵法精神、公德心

修学旅行の事前指導で

節度、節制

よりよい学校生活
集団生活の充実

➤ 補充

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.89）

生徒は、**学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりする**が、各教科等においてもその特質があるために、**その全てについて考える機会があるとは限らない**。

➤ 深化

また、生徒は、各教科等においてそれぞれの特質に応じて道徳性を養うための学習を行うが、各教科等の指導には各教科等に特有のねらいがあることから、**その中では道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができていないとは限らない**。それらの指導の中に含まれる道徳教育が、道徳性を養うためにはとかく断片的であったり徹底を欠いたりするのは避けられないことでもある。

➤ 統合

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』(p.89)

さらに、各教科等における道德教育の中で**多様な体験をして**いたとしても、それぞれがもつ**道德的価値の相互の関連や、自己との関わり**においての**全体的なつながりなどについて考えないまま過ごしてしまう**ことがある。単に個々の教科等に着目した場合に断片的で徹底を欠くばかりでなく、それだけでは、十分な成果を上げることができないこともやむをえない。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』(p.82)

3 学習指導の多様な展開

(3) 体験の生かし方を工夫した指導

生徒は、日常の生活や学校の全教育活動の中で**様々な体験をしている**。その中で、様々な道德的価値に触れ、自分との関わりで感じたり考えたりしている。日常の体験を学習の中で発表することにとどまらず、日常体験そのものを教材としたり、道德科において、**職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かしたりするなどの多様な指導方法の工夫**を行うことが考えられる。道德科においては、

➤ 補充, 深化, 統合

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』(p.89)

道德科は、**道德的価値に関わる諸事象を、捉え直したり発展させたりして、生徒に新たな感じ方や考え方を生み出すという役割**もある。したがって、その断片的あるいは掘り下げを欠いた不十分さを補うために、道德科では、生徒が道德的諸価値について自覚を深めることが必要である。

このことを生徒の立場から見ると、**道德科は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などで学習した道德的諸価値を、全体にわたって人間としての在り方や生き方という視点から捉え直し、自分のこととして理解し、自分との関わりで道德的諸価値を捉え、自分なりに発展させていこうとする時間**ということになる。

内面的資質としての**道德性を主体的に養っていく時間**

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』(p.82)

3 学習指導の多様な展開

(3) 体験の生かし方を工夫した指導

生徒は、日常の生活や学校の全教育活動の中で**様々な体験をしている**。その中で、様々な道德的価値に触れ、自分との関わりで感じたり考えたりしている。日常の体験を学習の中で発表することにとどまらず、日常体験そのものを教材としたり、道德科において、**職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かしたりするなどの多様な指導方法の工夫**を行うことが考えられる。道德科においては、

- ・ 生徒が**日常の体験を想起する問いかけ**
- ・ **体験したことの実感を深めやすい教材**
- ・ **実物の観察や実験等を生かした活動**
- ・ **対話を深める活動**
- ・ **模擬体験や追体験的な表現活動**

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.50)
Cの「13 勤労」

(2) 指導の要点

さらに、**体験的な学習を生かして、働くことの重要性について理解を深めさせることが重要**である。そのためには、**キャリア教育と関連させて、職場体験活動やボランティア活動、福祉体験活動などの体験活動を生かすなど指導の工夫が求められる**。勤労の尊さや意義についての考えを深めるとともに、働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることが大切である。勤労を通して、社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され、心から満足でき、生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めたい。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.72～)

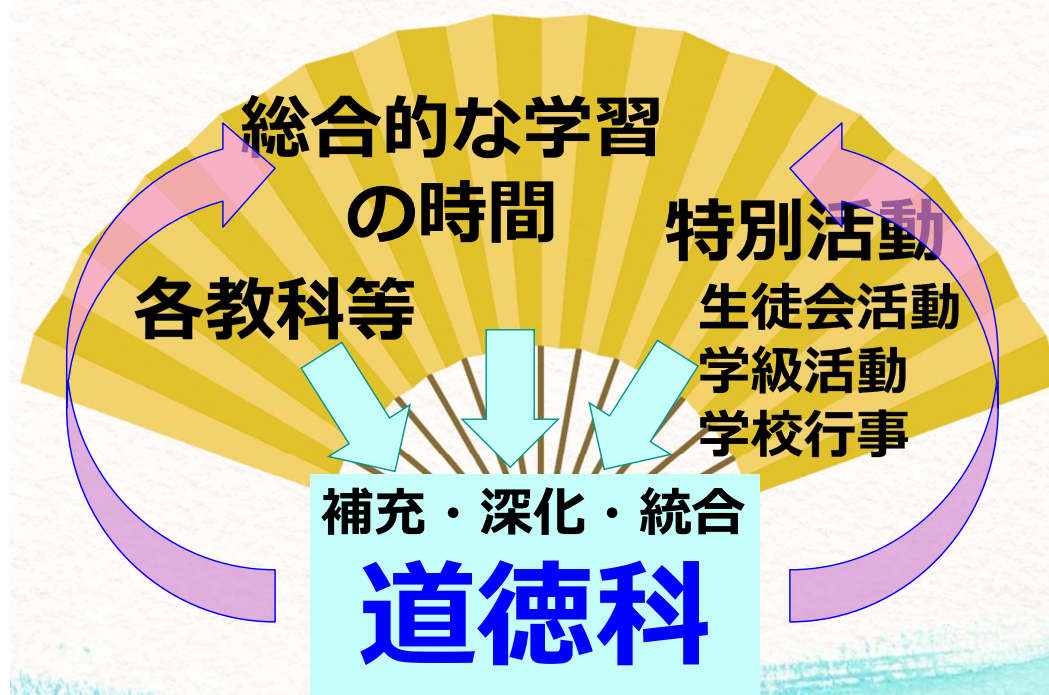
3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(5) 複数時間の関連を図った指導を取り入れる

道徳科においては、一つの主題を1単位時間で取り扱うことが一般的であるが、内容によっては複数の時間の関連を図った指導の工夫などを計画的に位置付けて行うことも考えられる。

例えば、

- ・一つの主題を2単位時間にわたって指導し、道徳的諸価値の理解に基づいて人間としての生き方についての学習を充実させる方法
- ・重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導と関連させて進める方法など



『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(p.72～)

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

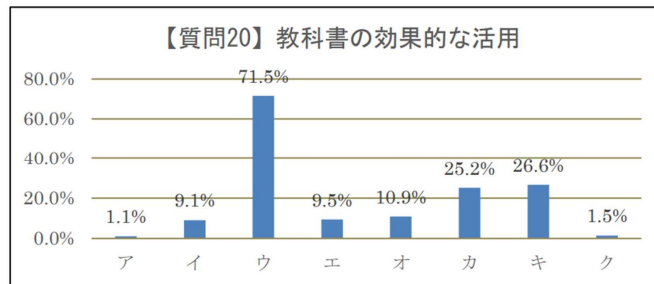
(6) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する

年間指導計画は、学校の教育計画として意図的、計画的に作成されたものであり、指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない。変更や修正を行う場合は、**生徒の道徳性を養うという観点から考えて**、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、**学年などによる検討を経て校長の了解を得ることが必要**である。

➤ 東京都中学校道徳教育研究会 「令和3年度アンケート調査結果」より

【質問20】道徳科の教科書の効果的な活用について、どのようなことを行っていますか。（複数回答可）

- ア 自宅に持ち帰り、学習した教材を必ず復習をさせている。
 イ 自宅に持ち帰り、学習した教材について親子で話し合うなど話題にさせている。
 ウ 教科書は授業で初めて読むようにするため、教室で保管するようにしている。
 エ 全校集会や学年集会等で道徳教科書の教材を活用して、日常生活での道徳的価値について考える。
 オ 各教科の学習の際に道徳教科書の教材を活用して、多様な見方や考え方を育てている。
 カ 学校行事等を行う際に道徳教科書の教材を活用して、学校生活における課題について考える。
 キ 授業では、教科書における道徳的価値を深めるために補助教材を積極的に使用している。
 ク その他（記述）



＜調査結果から分かること＞

教科書については4分の3の学校で教室に保管し、授業で初めて教材を読むようにしている。

また、補助教材の積極的な活用が13ポイント減少しているのは、教科書に沿って進める指導が定着してきたと考えられる。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.105）

1 教材の開発と活用の創意工夫

(2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした郷土資料など、**多様な教材を併せて活用することが重要**である。

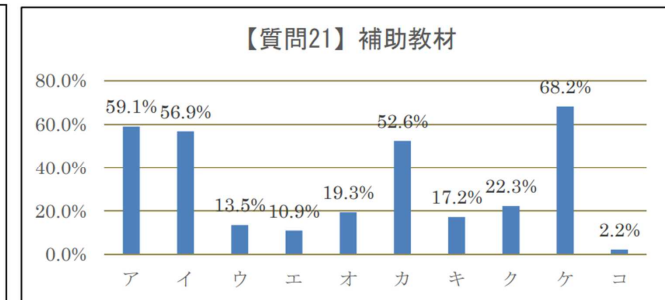
➤ 東京都中学校道徳教育研究会 「令和3年度アンケート調査結果」より

【質問21】道徳科の補助教材として活用している、または活用したいと考えているものは何ですか。（複数回答可）

- ア 新聞記事 イ インターネット情報記事 ウ 地域の郷土資料集 エ 地域の生活・文化資料集
 オ 道徳的価値を含む漫画・雑誌 カ 道徳教材を扱う読み物資料集 キ 偉人等の資料集
 ク 人・自然・文化等の写真集 ケ 映像教材（ソフトやメディア等） コ その他（記述）

＜調査結果から分かること＞

補助教材については6割の学校で新聞記事を活用し、映像教材を使用する学校が約7割ある。他にはインターネット情報資料と道徳教材としての読み物資料を5割強の学校で活用している。主たる教材としての教科書以外の活用は、道徳科の目標や特性を踏まえて各学校で考えている。



『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（p.72～）

3 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

(7) 年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

年間指導計画に基づく授業が一層効果的に行われるためには、授業実施の反省に基づき、上記により生じた検討課題を踏まえながら、全教師の共通理解の下に、年間指導計画の評価と改善を行うことが必要である。そのためには、**日常から実施上の課題を評価欄に記入したり、検討したりするための資料を収集することにも心掛けること**が大切である。

『中学校学習指導要領解説 総則編』(p.131)

イ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備

(ア) 道徳教育推進教師の役割

- ・ 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ・ 道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・ 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ・ 道徳教育における評価に関すること など

『中等教育資料』4月号

道徳教育推進教師を中心とする道徳教育の推進

学習指導要領のねらいが知りたい！

授業実践のヒントがほしい！

そんなときは、

文部科学省
教育課程課
編集

中等教育資料

電子版も発売中！(Amazon, 楽天Kobo)

発行者 学事出版株式会社

定価 748円(本体680円+税)